

MACF 礼拝説教要旨

2022年1月30日

【癒しと赦しは神から】

ルカによる福音書 5章

5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律法の教師たちがそこに座っていた。この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。

5:18 すると、男たちが中風を患っている人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れてイエスの前に置こうとした。

5:19 しかし、群衆に阻まれて、運び込む方法が見つからなかったため、屋根に上って瓦をはがし、人々の真ん中のイエスの前に、病人を床ごとつり降ろした。

5:20 イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

5:21 ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。「神を冒瀆するこの男は何者だ。ただ神のほかには、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」

5:22 イエスは、彼らの考えを知って、お答えになった。「何を心の中で考えているのか。」

5:23 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。

5:24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。

5:25 その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った。

5:26 人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて、「今日、驚くべきことを見た」と言った。

\*\*\*\*\*

ここにも癒しの奇跡の物語が描かれています。場面がふたつに分かれています。

最初は「5:20 イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

という文脈。

前回話したように「病気の癒しは罪の赦しと連動」していました。罪が赦されると心が軽くなり癒しに連動すると考えられています。

イエス様はこの中風の人の状況を罪の咎めによって縛り付けられているゆえに体調が極度に

悪くなっていることを知っていました。その内容に触れる前に、興味深い記述があります。

「5:20 イエスはその人たちの信仰を見て、」です。

## 1) その人たちの信仰を見て

この中風の人は自力でイエス様のところには来れませんでした。

もしかしたら自分で願っていたわけでもなかったかもしれません。

でも彼の友人あるいは家族はイエス様のところに行ったらきっと何か起こると信じていたので、屋根を壊してでもこの人をイエス様のところに連れて行って診てもらおう、癒していただこうと思ったのです。そこには純粋なイエス様への信仰がありました。彼らは心をひとつにしてこの病人をイエス様のもとに運んだのです。

イエス様は、その病人の信仰ではなく、病人を運び込んだ人たちの信仰を見てこの奇跡がもたらされました。

私たちは信仰というと、個人個人の告白に基づくイエス様への信頼と定義づけますが

この物語は、それだけでなく「思いやりあふれる周囲の人たちの愛と神様への信頼が奇跡をもたらし」ということを教えています。

たとえば、私たちは「ある人のために祈る」場合、それはちょうどこの物語の患者さんを運んだ仲間たちと同じ行動をとっていることを知る必要があります。

祈りは、自分だけでなく、祈りに上げているその人をイエス様のところに運んでいます。

その祈られた人への祝福は、祈られた人が熱心になるかならないかとは関係なく、祈っている人の信仰によって神様から届けられることがあるのです。

つまり、あなたの味わった祝福の多くは、あなたの信仰が素晴らしかったからということだけでなく、だれかに祈られたことによるものが少なからずあるということを忘れてはならないと思います。

## 2) あなたの罪は赦された

病気の癒しと罪の赦しという関係は、わたしたちにはあまり馴染みがないかもしれ

ません。あるとすれば「その病気は何かの悪行のばちが当たった」という発想くらいかもしれません。

しかし根源的な意味で「罪」が「意図的な外的外れ」というものですから、その罪が赦され解消されたら「身体が的外れな動きをしなくなる」わけです。つまり正常に作動することになるわけです。

イエス様にとっては「罪の赦し」と「身体的な癒し」はほとんど同じ意味があります。

身体も心も罪が赦され、的外れな動作が止まるので正常な動きを始めるわけです。

神様は私たちの身体を「生きるを選ぶ」ようにお造りになりました。そのために血液は循環し、心臓は休みなく動き、臓器はそれぞれの役割を果たしています。生かすためです。

私たちが意識しようとしまいと、生かすためにこの肉体は稼働しています。

罪が入ると、その働きが歪みます。生かそうとしていた器官が逆らって「殺そう」「拒否しよう」となるからです。

それは人間関係においても同様です。

「殺そう」「追い出そう」「拒否しよう」という発想は基本的には平和を壊し、生きるを潰します。それゆえ「罪」なのです。

それが解消されるとき「喜んで生きるを選びやすく」なります。

### 3) 神への冒涇なのか、神の奇跡なのか

それを聞いていた宗教家たちは苛立ちました。

「罪を赦す」ということは神様のみができることであって人間には不可能だと知っているからです。でも、イエス様が本当のところ誰なのかを知っていたら、そんな疑問はでないはずなのです。すでにイエス様の「罪の赦しと病の癒し」は「主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。」と書かれており、神ご自身の出来事として理解されていたからです。

実際に奇跡を見ても宗教家たちはそれを「神様からの奇跡」として認めませんでした。

神を教えるのは自分達だけだと自負していましたし、イエス様への対抗意識もあったと思います。そこで

「5:21 ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。「神を冒涇するこの男は何者だ。ただ神のほかには、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」

と描かれています

実際に癒されている人たちがいても、彼らはそれを「あやしい偽物」としか解ろうとしませんでした。彼らの心には「神への恐れ」はあっても、それをイエス様と結びつける信仰がありませんでした。

### 4) 癒しの出来事

彼らは、イエス様による癒しを目の当たりします。

5:22 イエスは、彼らの考えを知って、お答えになった。「何を心の中で考えているのか。

5:23 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。

5:24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。

5:25 その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った。

5:26 人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて、「今日、驚くべきことを見た」と言った。

癒された人はその出来事を経験し「神を賛美しながら家に帰った」とあります。

癒しと罪の赦しが彼を健康にし、心が神にむかって賛美できるような思いが満たされました。イエス様がどういうお方なのか、人々はまさに目撃したわけです。

この出来事は明らかにイエス様が「神からの救い主」であることを証している出来事です。癒しも赦しも人間の言葉だけ提供することはできませんから。

嬉しいことに、その人は大喜びで帰るのですが、病気が治ってよかった、よかったで終わりになっていません。

彼は、神の御手による出来事としてしっかり感謝と賛美を捧げています。

罪が赦され、心が軽くなると、神様への感謝や賛美という方向が自然と育ってきます。

自分の身体と心が生きるを選び、それがしっかり動き始めると、当然のように創り主である神への賛美、神への感謝、礼拝に向かっていくのです。

それが「癒し・ゆるし」の最大の目的であり、効果でもあります。

でも、それを目撃していた宗教指導者たちはどうだったのでしょうか。おそらく苦虫を嘔み潰したような表情で冷たい視線を直った人にもイエス様にも送っていたのではないかと思います。そして、もしかしたら、コソコソ、そこから退散したのではないかと・・・。  
悲しいことです。

教える役割を果たすべき人たちが自分の意見に凝り固まってしまっていて、神ご自身の啓示を信用していないのですから。

しかし、これはわたしたちにも起こりやすいことです。

イエス様を信頼し、そのみ言葉を信じる人になりたいですね。

\*\*\*\*

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/OSRhHTebNlo>